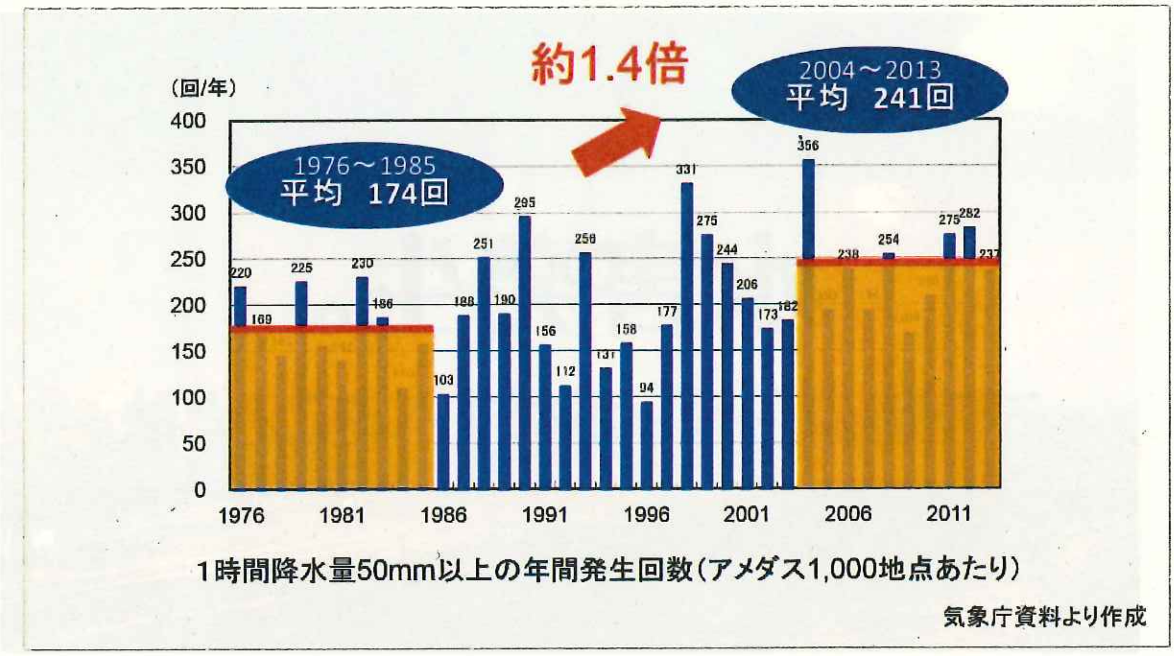
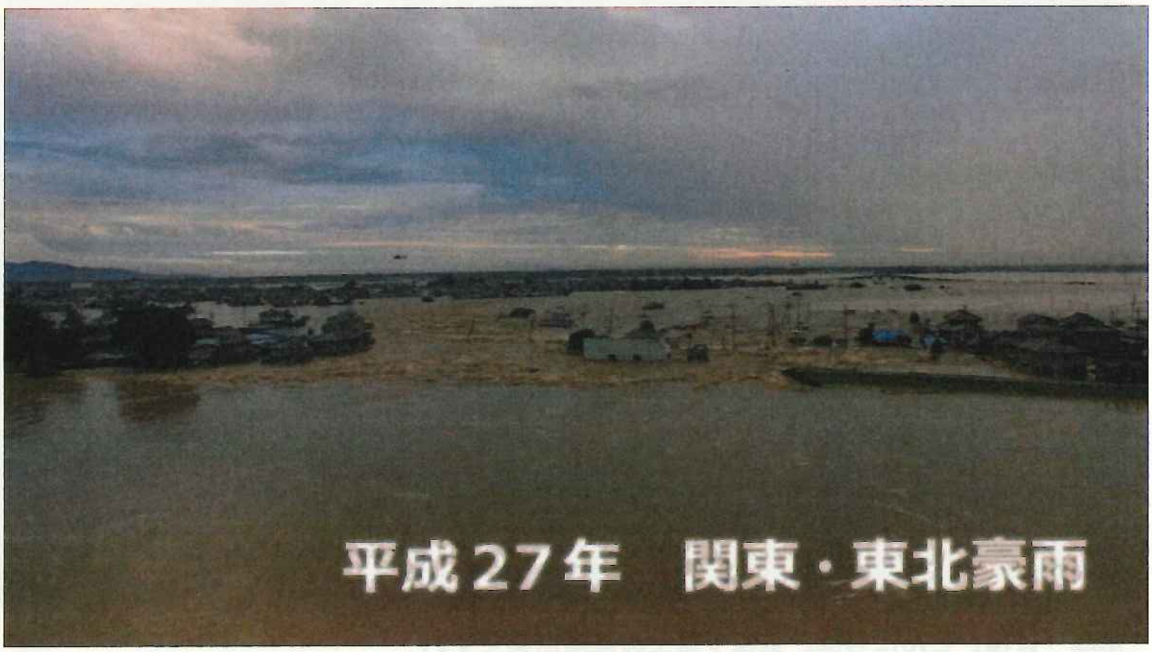
別 紙

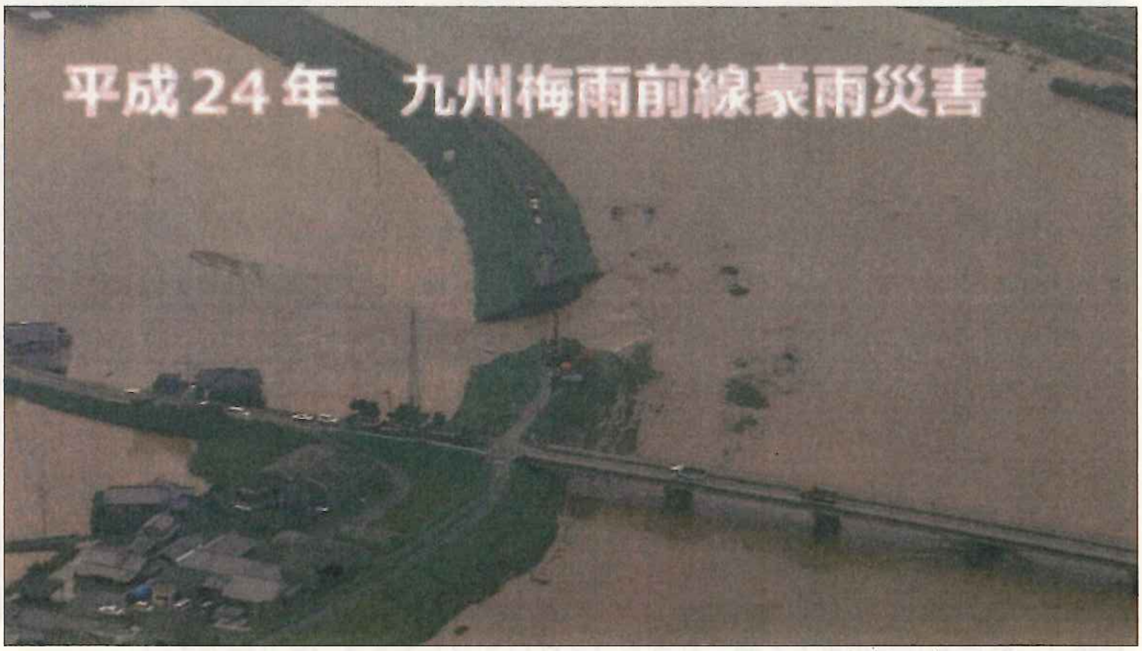
尾崎「皆様、こんにちは。気象予報士の尾崎朋美です。」



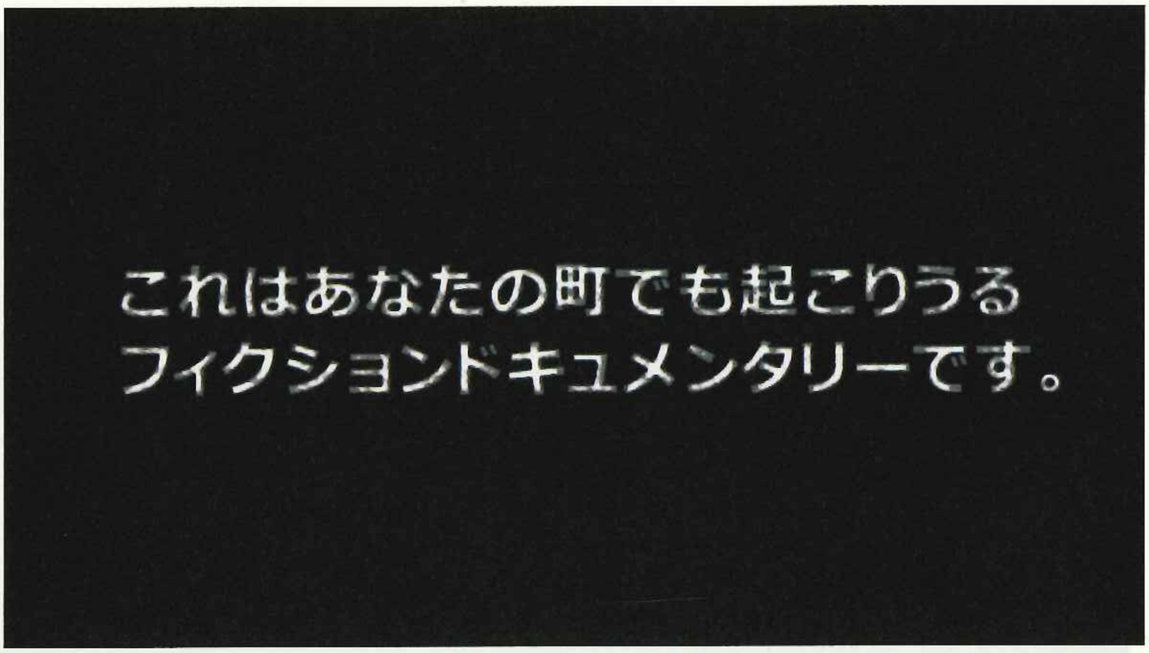
尾崎「近年、1時間 50㎜ を上回る豪雨は増加傾向にあります。」



尾崎「そして近年の雨の降り方は、局地化、集中化、激甚化していると言われています。台風等による大雨により、毎年、全国各地で水害が発生しています。」



尾崎「災害時に市町村長には、状況に応じた適切な判断が求められます。そのために、事前に対応方針を定めておくなど、関連する機関との連携を踏まえた準備をしておくことが大変重要です。市町村長が水害時に担う責務や、情報収集の方法など、皆様に理解を深めていただくためにこちらのVTRをご覧ください。」



尾崎「これはあなたの町でも起こりうるフィクションドキュメンタリーです。」

尾崎「9月19日、台風12号が近づくA市では、夕方から急激に雨が強くなっていた。その勢いは深夜になっても全く収まらず、市役所では災害対策本部が設置されていた。」

市長「河川の水位が上昇している。雨も降り止まない。どうしたらいいんだ。」
市職員「既に避難判断水位に達しています。このままでは氾濫危険水位を超えるかもしれません。」
市職員「そろそろ避難勧告を発令した方が良いのではないでしょうか。」
市職員「しかし、深夜に避難勧告を出せば、住民の混乱も予想されます。」

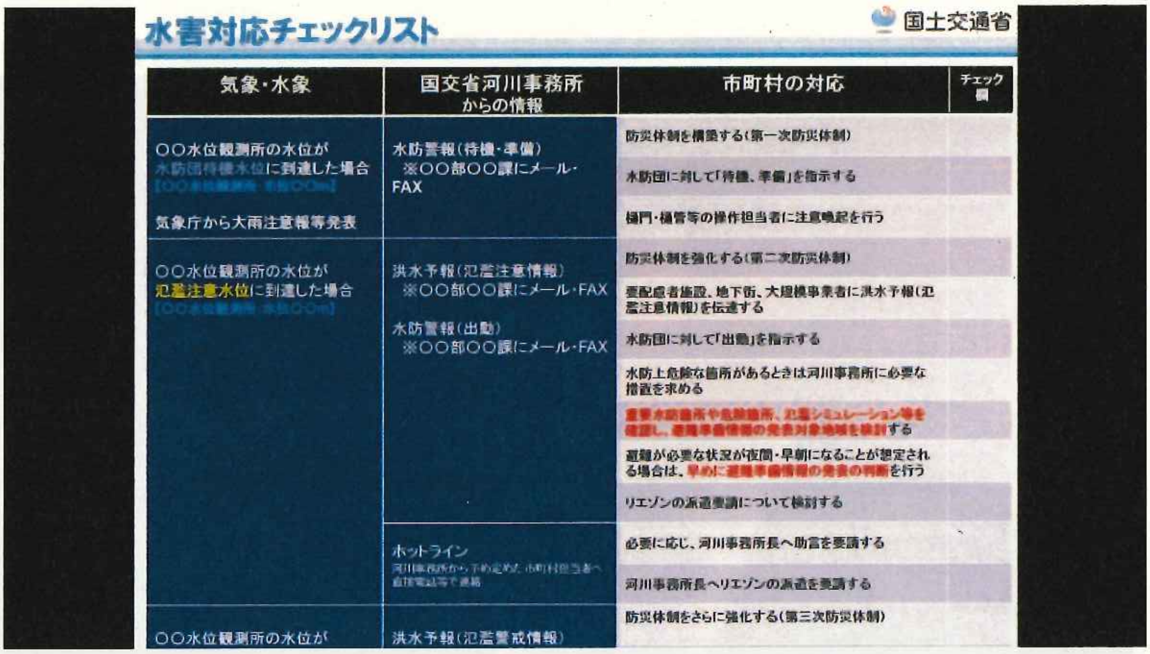
市職員「河川事務所に助言を求めてはいかがでしょうか。」

市長「河川の水位が上昇しています。避難勧告を発令すべきか迷っています。」

河川事務所「3時間後には氾濫危険水位を超え、その後も水位は上昇し続ける見込みです。堤防の高さに水位が到達する前でも、堤防や地盤から水が噴き出す漏水が発生し、堤防が決壊する場合があります。」

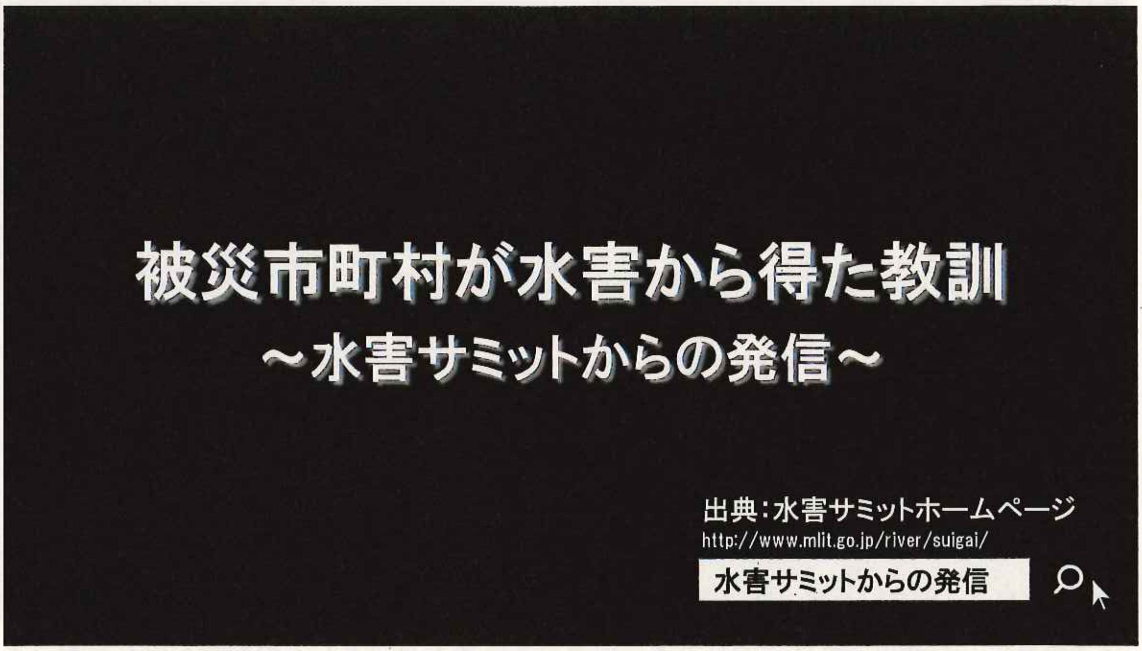
市長「わかりました。早急に避難勧告を発令します。」

「洪水に備えて事前に何をすべきでしょうか？避難勧告の発令に着目した事前の備えとして、水害対応チェックリストについて紹介します。」



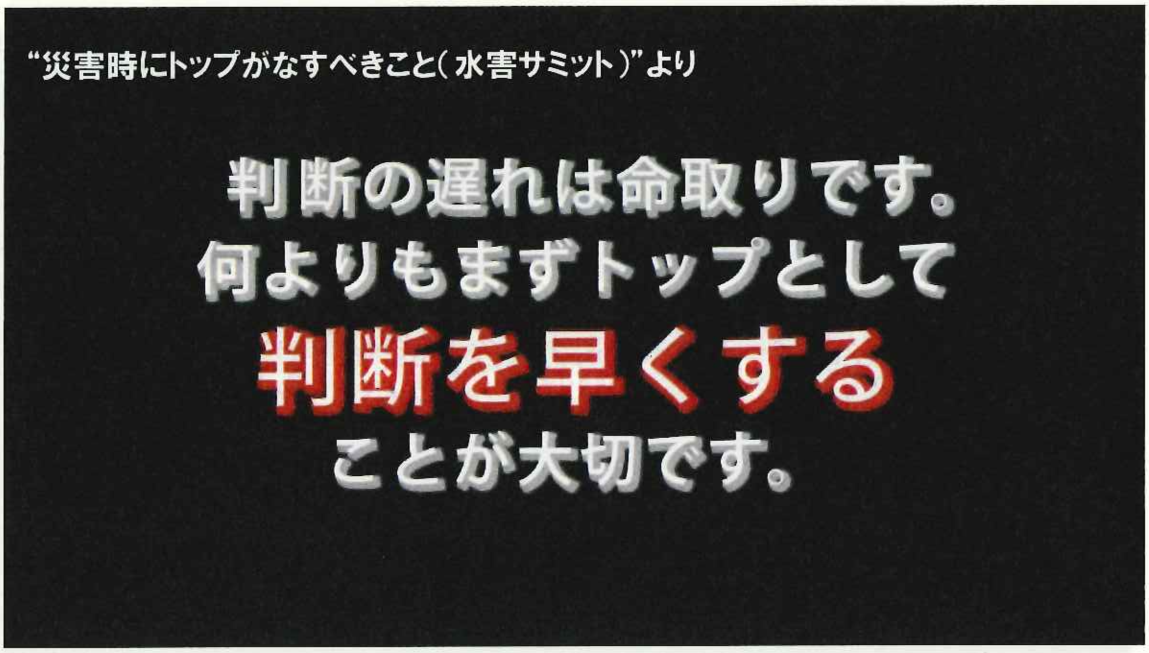
「水害対応チェックリストとは、このように、気象状況や河川の状況に応じて、河川事務所からどのような情報が入り、その際に市町村ではどのような対応をする必要があるのかを整理したものです。」

「水害対応チェックリストを作成しておくことで、気象状況や河川の状況、河川事務所からの情報に対して、市町村がすべき避難勧告等の具体的な対応を、予め明確にし、状況に応じた適切な対応ができます。」

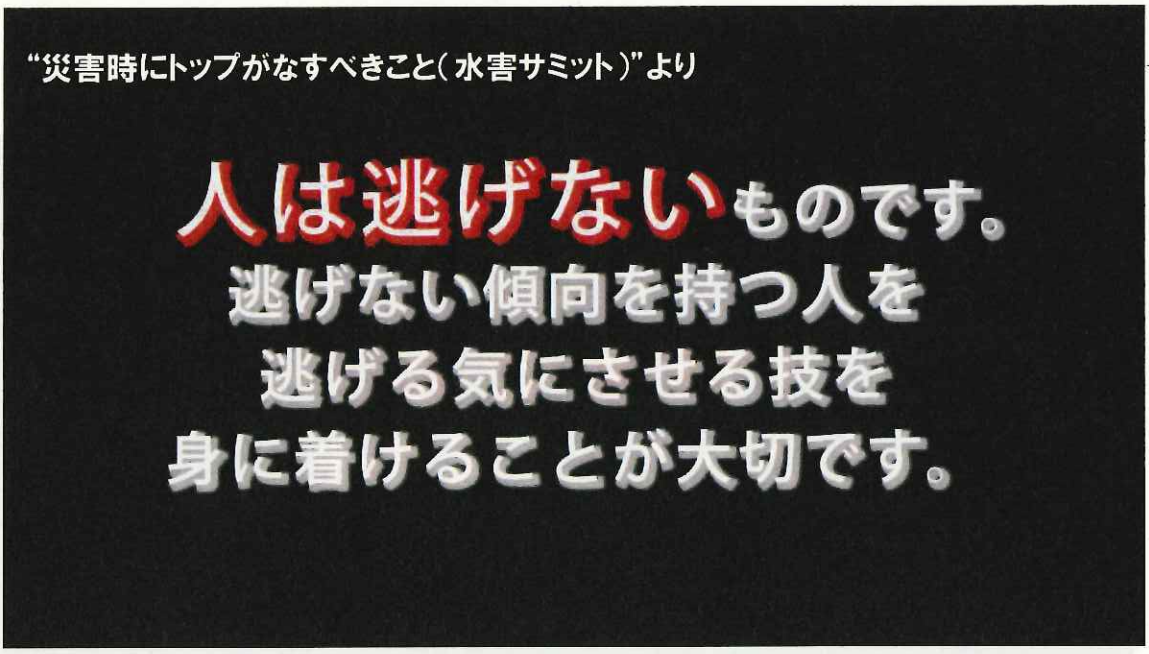


「水害が発生した場合、リーダーとして何をすべきなのでしょうか。過去に大きな水害を経験した市町村長で構成されている水害サミットが発信する教訓をご紹介します。」
「水害サミットとは、全国の大規模水害被災地の市町村長の集まりです。被災時の体験や現場から得た教訓を語り合うとともに、情報を全国に向けて発信しています。まず、この水害サミットで話し合われた"災害時にトップがなすべきこと"の一部をご紹介します。」

「一つ目に、「命を守る」ということを最優先し、避難勧告を躊躇してはいけません。」



「二つ目に、判断の遅れは命取りです。何よりもまずトップとしての判断を早くすることが大切です。」



「三つ目に、人は逃げないものです。逃げない傾向を持つ人を逃げる気にさせる技を身に着けることが大切です。

水害を経験した市町村が水害から得た教訓

「ここからは、水害を経験した３つの市町村が水害から得た教訓をご紹介します。」

「最初は、新潟県三条市における被災実態と市長からのメッセージです。新潟県三条市では、平成 16 年の水害時、観測開始以降最大となる 474㎜ の降雨が発生しました。この大雨により死者９名、重傷者１名の被害が発生しました。」

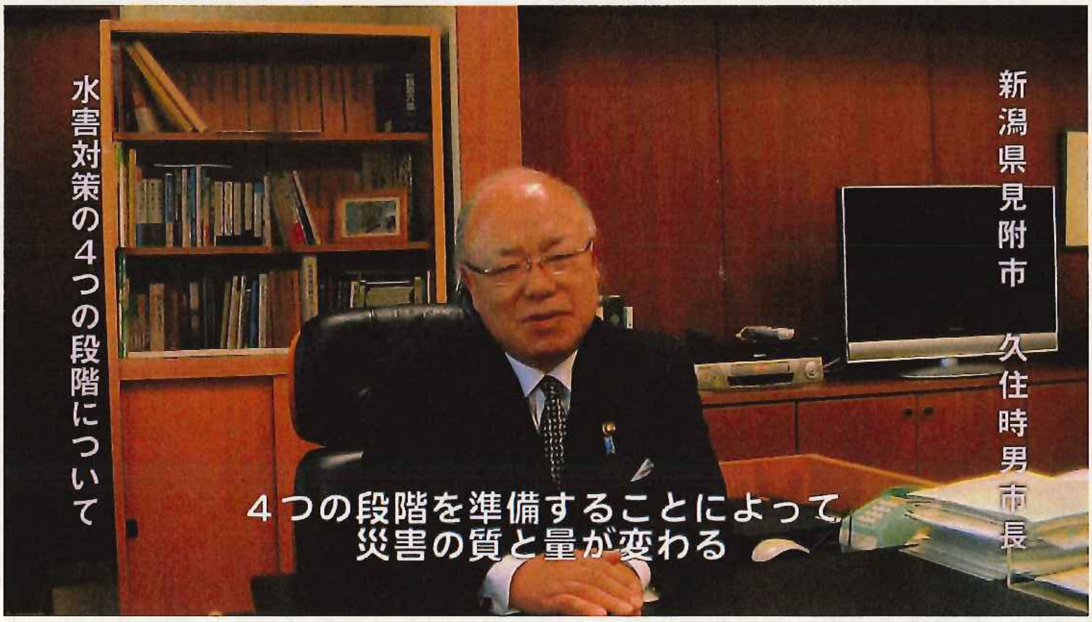
平成 16 年と平成 23 年に 2 度大きな水害を受けた。その時の経験で、初動段階が非常に重要であると感じた。
水害発生直後が大変なのはもちろん、2 か月、3 カ月、半年と続いていく災害復旧段階が非常に重要となる。
初動段階で過ちを犯してしまえば、住民の皆様との信頼関係を失う。マスコミとの対応も大変な状況に陥る。それによって、大切な災害復旧段階における貴重な時間を奪われかねない。
水害における初動段階で大切なのは、避難情報をタイムリーに的確に、全ての皆様方に伝えることにある。
初動段階＝避難情報を適切にだす。このことを市町村長はいつも念頭におき、日頃から、その備えを怠ってはいけない。

三条市長からのメッセージの要点

初動段階が非常に重要である。

- 過ちを犯すと、住民との信頼関係を失い、マスコミ対応も大変な状況に陥る。
- 避難情報をタイムリーに全ての皆様に伝えることが大事。
- 初動段階＝避難情報を的確に出すことが大事。
- 日頃からその備えを怠ってはいけない。

「次に、新潟県見附市における被災実態と市長からのメッセージです。見附市では、平成16年の水害時、観測開始以降最大となる423mmの降雨が発生しました。この大雨により、見附市内では5箇所が破堤。土砂災害は90箇所で発生しました。」



水害をいくつか経験してきた中で、4つの段階を準備することによって災害の質と量が変わる。

1つ目は、上流のデータを的確に早く入手できるよう事前に準備すること。

2つ目は、入手したデータがどの様な関連をもっているのか、このデータをもとに客観的に避難準備情報、避難勧告を発令できる判断のチャートを事前に用意しておく

3つ目は、判断したものを住民にどの様にお伝えするのか、

多角的に多層的に多くの種類で準備することが必要。見附市では13程度のルートで市民にお伝えすることを考えて進めている。

4つ目は、それを入手した住民がどのような形で的確にスピーディに避難できるか、準備し自覚してもらうことが大事、事前に住民の人に判断力をもってもらうことが大事。この4段階が災害の初期に準備できているかによって減災、災害の質と量が変わってくる。

見附市長からのメッセージの要点

水害対策のためには、4 つの段階を準備することが重要。

① 的確な情報を早く入手できる準備をすること
② 避難勧告の発令等を客観的に判断できる準備をすること
③ 判断した情報を多様な手段で発信すること
④ 事前に住民に避難判断力をもってもらうこと

「最後に、兵庫県豊岡市における被災実態と市長からのメッセージです。豊岡市では、1 時間に約 40mm の瞬間的な降雨が発生し、水位が 1 時間で約 1.6m も上昇し、堤防が決壊しました。その結果、8 割以上の住宅に設置していた防災無線により避難勧告・避難指示を放送したにもかかわらず、多くの住民が逃げ遅れ、死者 7 名、重傷者 23 名の被害が発生しました。」

災害の危機が迫ってきたとき、市町村長にとって最大の課題は、「いかに人々を逃がすか」ということにある。しかし、人は逃げない。

正常化の偏見と呼ばれる強い心の働きによって、世界中で人々は逃げ遅れている。逃げない傾向をもつ人を、いかにうまく逃がすか、ポイントは平常時にある。

避難勧告等の意味を住民に伝え、

たとえ真夜中であったとしても、空振りになる恐れがあったとしても躊躇なく避難勧告を発令することを伝え、

最終的に逃げるかどうかの判断は住民が自らしなければいけないことの覚悟を求め、

行政は住民の判断に役立つように情報を的確に収集し伝える技を磨く必要がある。

そして、危機が近づいてきたとき、危機が刻々高まっていることを具体的に人々に伝え、最後は避難勧告・避難指示等を躊躇なくだすことが重要である。事前に躊躇なく避難勧告をだすことを人々に伝えておけば、いざという時の躊躇が無くなる。

市長村長は重い責任を負っている。その責任から逃れることは誰もできない。お互い覚悟を決めてがんばっていきましょう。

豊岡市長からのメッセージの要点

- 逃げない人々を如何に逃がすか。ポイントは平常時。
- 平常時から住民に避難勧告の意味を伝えておくことが大事。
- 最終的に逃げるか否かの判断をするのは自分であるという覚悟を住民に持って貰う事が大事。
- 行政は住民の判断に役立つ情報を的確に収集し、伝える技を磨く。
- 避難勧告・避難指示等を躊躇なく出すことが大事。

水害サミット実行委員会

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

お問い合わせ先
国土交通省 水管理・国土保全局 防災課　電話番号：03-5253-8457